



日本最西端 与那国島から来ました

はじめまして



佐賀から南南西に約千二百キロ。台湾の東百キロあまりの洋上にポツリと浮かぶ島。島で唄い継がれている「与那国小唄」の一番は、波にぼつかり浮く「与那国は、島はよい島無尽の宝庫、歌と情けのパラダイス」：「黒潮が日本で最初に会おう絶海の孤島というイメージがありますが、佐賀から飛行機を乗り継げばその日のうちに到着する、案外気軽にいける日本最西端 与那国島。年に数十日、晴れた日には島の西方に台湾の島影がくつきりと感じる事もあります。

車で島を一周していると、与那国馬がのんびりと草を食みながら道路を闊歩する光景に出会うはず。また、断崖に囲まれた海の中も独特で、海底遺跡ポイントと呼ばれる階段状の巨大な岩の構造物が静かに眠っています。自然のものか、古代の人々が造り出したものかよくわかっていませんが、潜った人たちはスケールの大きさに神々しささえ感じるといいます。

与那国町と佐賀県は有事に備えた避難受入先として引き受けてもらいました。そのご縁から今後交流を活発にしお互いの連携が深まる事を期待して今回の与那国島観光芸能フェアを開催致します。

【与那国島への行き方】

- 飛行機
 - 沖縄空港から約80分(2往復/日)
 - 石垣空港から約30分(3往復/日)
 - *飛行機はJALから予約
- フェリー
 - 石垣島から約4時間(2便/週)



祖納集落(与那国島)

与那国島の概要

自治体：与那国町
 周囲 27.49km
 面積 28.96k㎡
 人口 1,655人
 (令和7年5月末)



遠い島の芸能を
ぜひ堪能してください

芸能

与那国島は琉球王朝時代の文化を受け継ぎつつ、八重山諸島の中でも独自の伝統を守り続けてきました。島に伝わる芸能は古風な趣を残し、芸能史の上でも高い価値を持つと言われています。人々の信仰や暮らしと深く結びつき、世代を超えて大切に受け継がれてきました。今回のイベントでは、嶋仲公民館による特別公演をお届けします。島の芸能を、この機会にぜひご覧ください。

芸能演目

座ならし
力強い太鼓が始まりを告げます。

ミティアギ
六尺一人が登場し舞台の清めがなされます。続けて、当日の棒踊り出演者総員が登場します。

道唄 (※初日1回目公演限り)
新しい年を迎え、島の大主に祈願した願いが叶えられた祈願成就のよるご歌です。赤い着物の女性が登場します。

ながく節
海の彼方から弥勒菩薩様を迎えて平和な世と理想的な天候と豊作を願う歌です。

三尺二人
三尺棒2人組で鏡う棒踊りです。

ナガナン節
転動で島に訪れたお役人が結婚を誓い合った間柄の男女の仲を引き裂いて彼女を妻にしまった悲哀物語です。

イララ六尺
イララ六尺棒の組み合わせ。「イララ」とは「鎌」のことで農作物を収穫するのに重要な道具を使うこの踊りは豊年祭に欠かせない演目です。

かわりゆく波多浜
島の名所であるナンタ浜が時代と共に変化して見る影もなくなる寂しさの歌です。

与那国ぬマヤー小
与那国島の賢い猫が歌った軽快なリズムの歌で猫小節(まやぐわぶし)とも呼ばれています。

ティンバイナギナタ
ティンバイ(短刀と笠)と薙刀の組み合わせ。ダイナミックな動きで盛り上がる花形の演目です。

ンビチ棒
終幕のあいさつを告げる演目です。

島ではいつ見られるの？
季節の折り目の祭事、豊年祭の十山神社で東・西・嶋仲の3つの公民館が芸能を奉納する様を観ることができます。